

鳥栖市文化財調査報告書第76集

八ツ並金丸遺跡

# 八ツ並金丸遺跡

鳥栖市文化財調査報告書第76集

2005

鳥栖市教育委員会

二〇〇五

鳥栖市教育委員会

鳥栖市文化財調査報告書第76集

やつなみかなまる  
八ツ並金丸遺跡

2005

鳥栖市教育委員会

# 序

本書は、都市計画公園鳥栖東公園の用地造成工事に伴い、平成15年度に実施した鳥栖市今町に所在する八ツ並金丸遺跡の埋蔵文化財緊急発掘調査の記録をまとめた報告書です。

本書を通して郷土の文化財に対して一層のご理解をいただき、また、学術文化の向上に幾分とも寄与するものになれば幸いに存じます。

発刊にあたり、埋蔵文化財の保護に深いご理解をいただいた関係部署、そして発掘作業や整理作業に従事された方々に厚く御礼を申し上げます。

平成17年3月30日

鳥栖市教育委員会

教育長 中尾 勇二

## 例 言

1. 本書は、都市計画公園鳥栖東公園用地造成に伴い、埋蔵文化財緊急発掘調査を実施した、鳥栖市今町に所在する八ツ並金丸遺跡の調査報告書である。
2. 発掘調査は鳥栖市（建設部都市計画課）の委託を受けて、鳥栖市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査にあたっては、鳥栖市建設部都市計画課の協力を得た。
4. 出土遺物の整理を含む報告書作成作業は鳥栖市藤木文化財整理室で実施した。
  - ・遺構実測は、榑藤トミ子・山本美代子・毛利美代子・榑藤イツヨ・松崎友子・杉岡俊明・久山高史がおこなった。
  - ・遺構・遺物写真撮影は久山がおこない、空中写真撮影は㈱空中写真企画に委託した。
  - ・遺物整理は榑藤イツヨ・松崎がおこなった。
  - ・遺物実測は中島貞子・榑藤トミ子・松崎がおこなった。
  - ・図面トレースは毛利よし子・榑藤由美子・松崎がおこなった。
5. 本書の執筆・編集は久山がおこなった。

## 凡 例

1. 本書で報告する調査区については、鳥栖北部丘陵新都市関連で佐賀県教育委員会・鳥栖市教育委員会・基山町教育委員会が協力して調査を実施した八ツ並金丸遺跡と隣接する。このため、北部丘陵関連調査同様に調査の着手順に北側調査区を「11区」、南側調査区を「12区」とした。
2. 遺構番号の設定方法、一覧表の書式、時期区分の表現等についても、鳥栖北部丘陵関連調査報告書（佐賀県教育委員会刊行）の記載方式に拠っている。
3. 方位は座標北である。ただし、上記同様に改正測量法施行（平成14年4月1日）以前の日本測地系による国土座標第II系の座標を用いている。

## 本文目次

第1章 調査の経過	1
1. 調査の経緯と組織	1
2. 遺跡の位置と環境	2
第2章 調査の概要	3
1. 11区の調査	3
2. 12区の調査	3
3. 確認調査の概要	4

## 挿図目次

図1 調査地点位置図 (1/6,000)	2
図2 調査区位置図 (1/1,000)	折り込み
図3 11区遺構配置図 (1/100)	5
図4 11区土坑 (1/40)	6
図5 SK11001土坑出土遺物 (1/4)	7
図6 SK11002土坑出土遺物 (1/4)	8
図7 SK11003土坑出土遺物 (1/4)	8
図8 SK11004土坑出土遺物 (1/4)	9
図9 SK11005土坑出土遺物 (1/4、40は1/2)	9
図10 SK11006土坑出土遺物 (1/4、61、62は1/2)	10
図11 12区遺構配置図 (1/125)	11
図12 12区出土遺物 (1/4)	12
図13 確認調査地点検出掘立柱建物平面図 (1/125)	13
図14 掘立柱建物周辺出土布目瓦 (1/3)	14

## 表目次

表1 八ツ並金丸遺跡11区 弥生時代 貯蔵穴	15
表2 八ツ並金丸遺跡11区出土遺物	16
表3 八ツ並金丸遺跡12区出土遺物	18

## 写真図版目次

図版 1	調査地点全景（南西上空から）	
図版 2	1. 11区全景（南上空から）	2. 12区全景（南西上空から）
図版 3	1. SK1101土坑（南東から）	2. SK1103（手前）・1102土坑（奥）（南東から）
	3. SK1102土坑（南東から）	4. SK1103土坑（西から）
図版 4	1. SK1104土坑（西から）	2. SK1105土坑（南東から）
	3. SK1106土坑（南から）	4. 同 床面遺物出土状況（南から）
図版 5	1. 12区遺物出土状況（南から）	2. 掘立柱建物跡検出状況（確認調査区・南から）
	3. 同（北から）	4. 同 側溝検出状況（南東から）
図版 6	1. SK11001・11003土坑出土遺物	2. SK11006土坑出土遺物
	3. 同	4. 掘立柱建物周辺出土布目瓦

## 報告書抄録

ふりがな	やつなみかなまるいせき							
書名	八ツ並金丸遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	鳥栖市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第76集							
編著者名	久山高史							
編集機関	鳥栖市教育委員会							
所在地	〒841-8511 佐賀県鳥栖市宿町1118		TEL 0942 (85) 3695					
発行年月日	西暦2005年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
や なみかなまるいせき 八ツ並金丸遺跡	さがけん 佐賀県 とすし 鳥栖市	410213	—	33° 24′ 39″	130° 31′ 26″	20031125 ～ 20031226	約600m <sup>2</sup>	公園造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
八ツ並金丸遺跡	弥生 古代	弥生 古代	土坑・住居跡		弥生土器・須恵器 ・土師器・布目瓦		確認調査地点で官衙 関連遺構とみられる 掘立柱建物跡を検出	

# 第1章 調査の経過

## 1. 調査の経緯と組織

平成15年10月21日付け鳥都第5152号により、都市計画公園鳥栖東公園の造成地内に所在する埋蔵文化財について、発掘調査の依頼が鳥栖市長（担当課建設部都市計画課）よりあった。この地区には八ツ並金丸遺跡が所在し、かつて埋蔵文化財確認調査を実施した結果弥生時代から奈良時代にかけての遺構の存在が確認されたため、文化財保存緑地とされてきた経緯があり、可能な限り現在の自然地形を生かして改変を最小限におさえた公園化が計画された。

鳥栖市教育委員会ではこの公園造成計画について都市計画課と協議を重ね、遺跡に影響のないように、さらに切土の計画を最小限にとどめる処置を依頼した。その結果、現地地表より削平される個所を、駐車場への導入路の一部および手洗施設に限定し、この部分約300㎡については事前に本調査を実施して記録保存をおこない、開発と文化財保護との調整を図ることで合意した。平成15年11月7日に埋蔵文化財発掘調査委託契約書を鳥栖市教育長と開発者である鳥栖市長との間で締結した。

調査は、現地の発掘調査を平成15年11月25日より12月26日にかけて行い、出土遺物・調査記録類の整理ならびに調査報告書作成業務は、平成16年度事業として平成16年6月10日より平成17年3月20日にかけて鳥栖市藤木文化財整理室において実施した。なお、平成3年度に開始された鳥栖北部丘陵新都市開発事業およびその関連事業に伴う埋蔵文化財の緊急発掘調査は、14年にわたる年月を経て今回の調査をもって完全に終了した。

調査の組織は以下のとおりである。

委託者	鳥栖市
調査主体(受託者)	鳥栖市教育委員会
総括	中尾 勇二 教育長
	近藤 繁美 教育部長
	西川 和彦 生涯学習課長 (平成15年度)
	西山 二郎 同 (平成16年度)
	高尾 泰明 生涯学習課参事 (平成15年度)
	権藤 民二 同 (平成16年度)
	藤瀬 禎博 生涯学習課長補佐 (市誌編纂係長兼務)
庶務	田中 啓子 生涯学習課生涯学習推進係事務吏員
調査	生涯学習課文化財係
	石橋 新次 文化財係長
	湯浅 満暢 文化財係主査 (平成9年度確認調査担当)
	久山 高史 同 (本調査・報告書作成担当)
	島 孝寿 文化財係事務吏員 (平成12・13年度確認調査担当)

現場発掘作業 久保山隆弘・仁田利宣・龍頭啓一・高田伊莫・山下重信・松隈マチ子・中島トミ子  
吉戸菊子・中山エミ子・権藤トミ子・山本美代子・毛利美代子・平田博子・権藤イツヨ  
松崎友子・杉岡俊昭

室内整理作業 中島貞子・山本美代子・毛利美代子・権藤イツヨ・松崎友子・毛利よし子・権藤由美子

## 2. 遺跡の位置と環境

八ツ並金丸遺跡は、佐賀県鳥栖市弥生が丘2丁目・3丁目および今町字八ツ並・基山町大字園部字金丸に所在する。脊振山地東部、九千部山系の杓子ヶ峰から東方向に伸びる丘陵群に位置しており、いわゆる柚比遺跡群の中では北端の位置をしめる。遺跡は東西700mにわたって伸びる丘陵とそこから南に派生する2本の丘陵から構成される。

鳥栖北部丘陵の本造成工事にかかる発掘調査は6ヵ年にわたって実施され、10区に分けて122,200㎡が調査されている。検出された遺構の大部分は弥生時代のもので、甕棺墓や土坑墓が大半である。古墳時代や奈良時代の遺構は竪穴住居や土坑が多く、中世の遺構は土坑墓2基のみである。特筆されるものとしては、いわゆる列埋葬の状況が検出された甕棺墓群や環濠に囲まれた貯蔵穴群、さらに彩色壁画を石室奥壁に持つチャーガンサン古墳や奈良時代の官衙関連遺構が想定できる掘立柱建物群が挙げられる。これら鳥栖北部丘陵新都市開発事業に係る八ツ並金丸遺跡調査の詳細については佐賀県教育委員会発行の調査報告書（「柚比遺跡群3」佐賀県文化財調査報告書第155集 平成15年）をご参照いただきたい。



図1 調査地点位置図 (1/6,000)





図2 調査区位置図 (1/1,000)

## 第2章 調査の概要

八ツ並金丸遺跡の今回の調査で対象となった東西に伸びる丘陵の東側部分については、以前に実施された確認調査で環濠を伴った弥生時代前期後葉の集落を確認したとされたため、鳥栖北部丘陵の造成計画の中では「文化財保存地区」として位置付けられた地区である。調査前の状況は一部茶畑を含む畑地および雑木林であった。なお、大正期にこの丘陵を東西に縦断する農業用水路を設置した際に、とくに丘陵尾根部分に相当する中央部分についてはかなりの削平を受けたようである。

### 1. 11区の調査

鳥栖北部丘陵新都市造成関連で調査を実施した八ツ並金丸遺跡の8区の東に隣接する調査区である。8区の東半部では弥生時代前期末～中期初頭の貯蔵用の竪穴（貯蔵穴）が多数検出されているが（図2参照）、本調査地区もそれに連続して同時期の貯蔵穴と考えられる土坑が6基検出された。あと8区同様に耕作機械による縦横の攪乱により遺構が一部損壊されていたが、調査地区全体から時期・性格不明の小穴が多数検出されている。なお、八ツ並金丸遺跡全体では本遺跡も含めて貯蔵穴が257基検出されているが、これは柚比遺跡群の中でも群を抜く数量・密集度である。

本地区で検出された貯蔵穴は、規模的には概ね小型の部類に入るものである。断面形態は袋状のものが4基（SK1102、03、05、06）、あとの2基（SK1101、04）は方形である。これらのうちSK1102、03の2基の土坑はSK1102土坑の埋没後にSK1103土坑が一部重複して掘削されている。あとの貯蔵穴に切り合い関係はない。遺物（図10、写真図版6）は、甕・壺・高杯等の土器類、土製紡錘車・石斧等が出土しているが、SK1106以外は大半が埋土中から出土した小破片である。これらのうちSK1101、05、06からは小壺が出土している。

比較的良好な状態で検出されたSK1106土坑（図4、写真図版4—3・4）は典型的な袋状の貯蔵穴で、床面から炭化した長さ約25cmの木材とほぼ完形の無頸壺（59）を検出した。この炭化木材については貯蔵穴に出入りするための梯子の残欠である可能性が考えられる。他の遺物は埋土中の出土であるが、肩部に2条の沈線の下に列点3条からなる円弧文を巡らせた壺（58）や今山産玄武岩製の太型蛤刃石斧（61）、土製紡錘車（62）が出土している。

### 2. 12区の調査

調査区は11区の南東約30mに位置する。この地区は平成9年度に実施した確認調査対象地点に重複しており、確認調査トレンチを3本跨いだ形となっている。本区は全体的に攪乱や削平を受けているために遺構の残存状態はあまり良好とはいえない。東端部分から重複する竪穴住居の可能性が考えられる遺構が検出されているが、上部の削平により部分的な落ち込み状遺構の状態を検出されており、これらの遺構の正確なプラン・性格等は不明確である。あとは時期・性格不明の土坑と小穴が調査地区全体で検出された。

これらの遺構の時期は、出土した遺物（図12）から弥生時代中期後葉～後期前葉頃とみられる。ただ、6世紀後半代のものとみられる須恵器の小片が数点出土した小穴があるところから、周辺に当該期の集落

の存在も想定される。

### 3. 確認調査の概要

八ツ並金丸遺跡の東西に伸びる丘陵の東半部は、文化財保存地区として鳥栖北部丘陵開発事業の当初より造成の対象から除外された。ただ、都市計画公園が埋蔵文化財に影響を与えないという条件でこの地区に設置されることが計画されていたので、平成9年度および12年度・13年度に、全体の遺構の状況および遺構面のレベルを確認する目的で確認調査を実施した。調査は東西約260m、南北130mにわたる丘陵平坦部分を中心に70個所のトレンチを設定して実施した（図2参照）。なお、調査は遺構検出のみにとどめた。

調査の結果、大半のトレンチから時期・性格不明の小穴とともに、弥生時代の遺構・遺物を検出した。これらの多くは弥生時代後期後葉の竪穴住居・土坑あるいは小規模な区画溝で、一部に中期後葉～後期前葉頃のものもあるようである。ただし、甕棺墓や土壙墓などの墓地を構成する遺構は検出されていない。また、文化財保存地区の根拠としてかつて存在が想定されていた弥生時代前期末～中期初頭の環濠を伴った集落の存在は、今回の確認調査では全く確認されなかった。弥生時代の遺物は土器類のほか石包丁や投弾が出土している。

古墳時代後期の遺構・遺物もわずかながら検出されているが、丘陵東端に近い部分で奈良時代の掘立柱建物跡が検出されたことが特筆される。ここからの遺物（図14、写真図版5）としては8世紀後半代の布目瓦片が遺構周辺から出土しており、建物はこの時期のものと考えられる。各柱穴の堀方は90～80×80cm程度の方形ないしは長方形で、柱痕は検出面で径約30cmを測る。掘立柱建物は平面図（図13）を一見すると、南北6間、東西2間と南北12間、東西2間の2棟の建物が南北に直列しているようにもみえるが、中間位置にあたる道路部分が調査できなかったため確定はできないものの、おそらく1棟になる蓋然性が高い。この場合の平面的規模は柱間南北22間、東西2間で、復元すると約21.3×1.8mの細長い平屋の建物となる。また、南東部分には建物に平行する素掘り溝が確認されており、側溝の可能性が考えられる。

東西に延びる丘陵上に点在する8世紀前半～後半にかけての掘立柱建物は、八ツ並金丸遺跡全体で8棟が確認されたことになる。これらの建物群の性格としては、何らかの官衙関連遺構であるとの見方が、当地が古代官道の推定線に隣接することや北部九州における官衙関連遺構の存在を傍証する「八ツ並」の字名から導き出せそうであるが、一方で、4区で検出されたほぼ棟を並列に揃えた3棟の建物と、これを囲む区画溝に多少の計画性が看取される以外は、あとの5棟の掘立柱建物については広大な「敷地内」にごく少数の建物が不規則かつ疎らに配置されている印象を受けること、あわせて遺跡全体を完掘したにもかかわらず、瓦の出土量も少量であり、文字資料が「公」とも読める刻書土器一点に止まっていること等から、この奈良時代の遺構の性格を考えるにあたっては慎重に検討する必要がある。

#### 参考文献

- 『八並遺跡』 鳥栖市文化財調査報告書第28集 鳥栖市教育委員会 1986年  
「39.八ツ並金丸遺跡」『佐賀県文化財年報7』 佐賀県教育委員会 2002年  
「32.八ツ並金丸遺跡」『佐賀県文化財年報8』 佐賀県教育委員会 2003年  
「八ツ並金丸遺跡（集落）」『柚比遺跡群3』 佐賀県文化財調査報告書第155集 佐賀県教育委員会 2003年

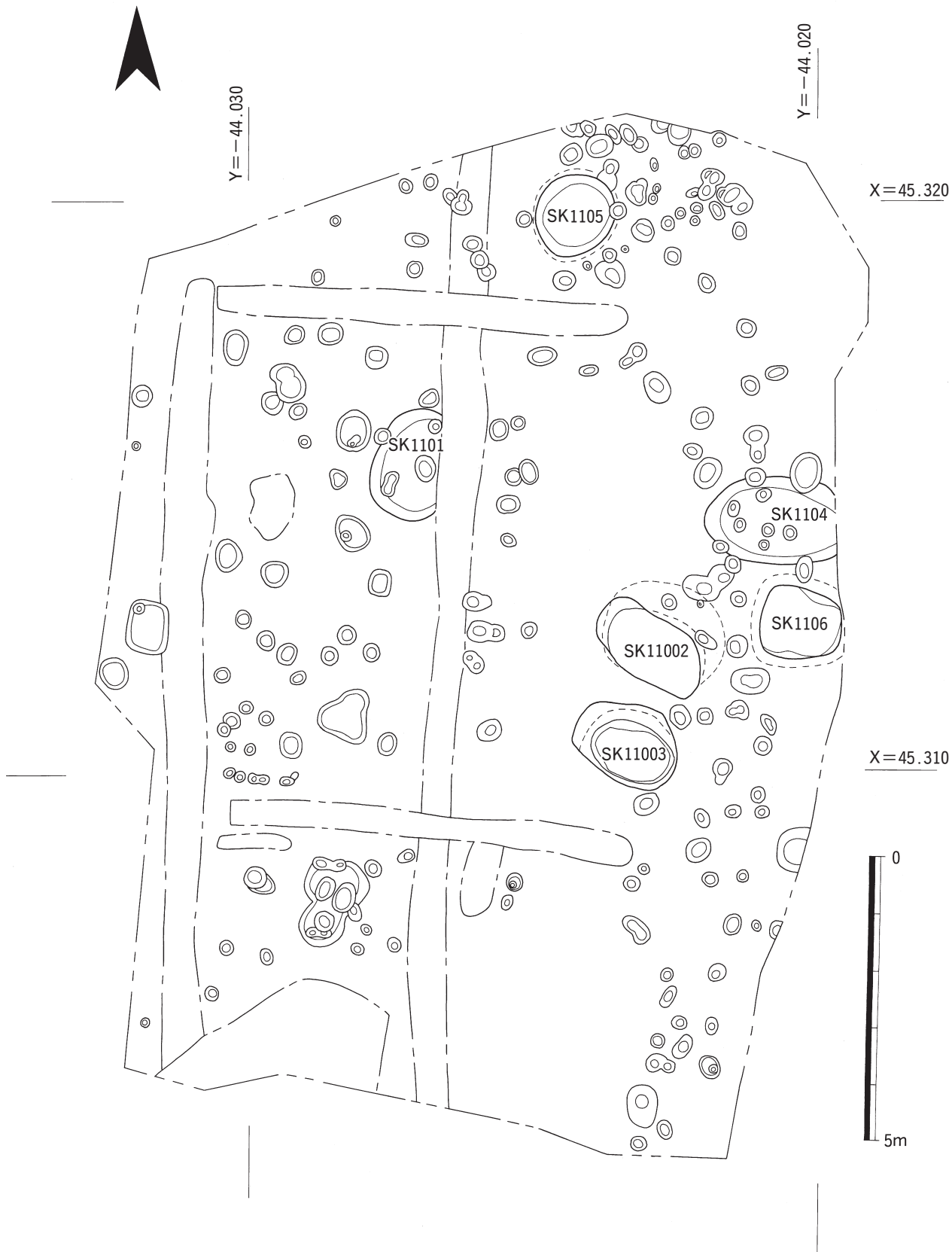


図3 11区遺構配置図 (1/100)

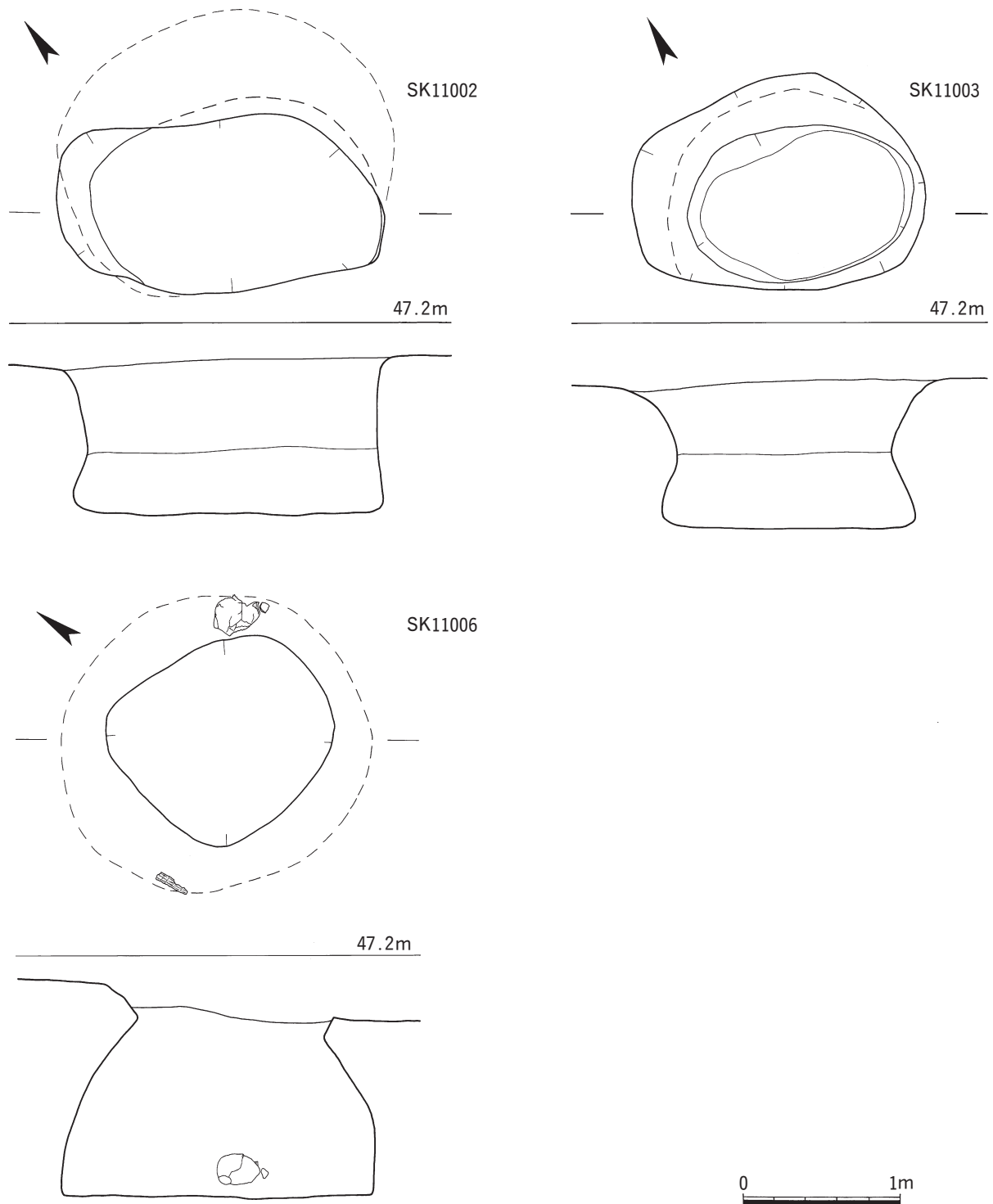


图4 11区土坑 (1/40)

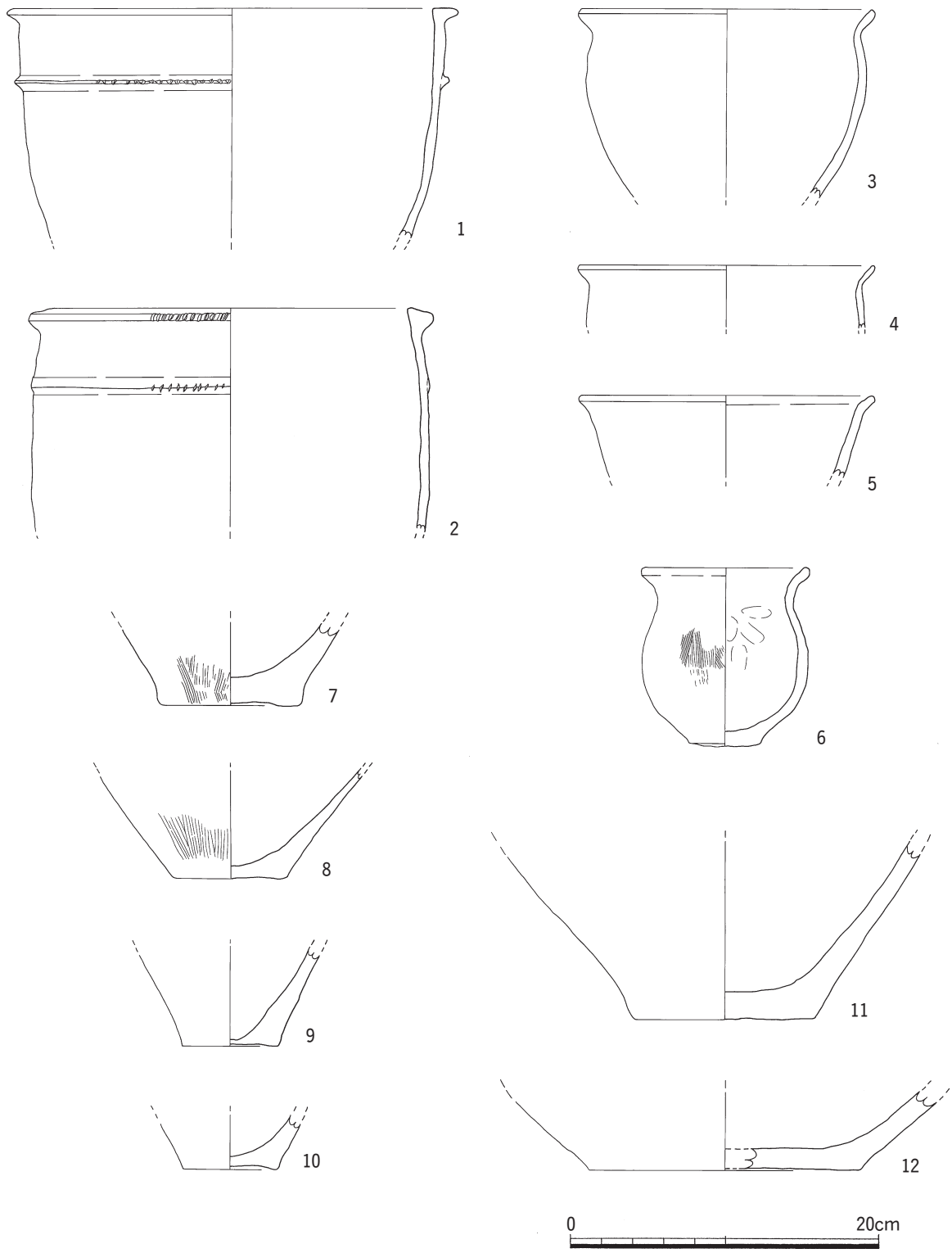


图5 SK11001土坑出土遺物 (1/4)

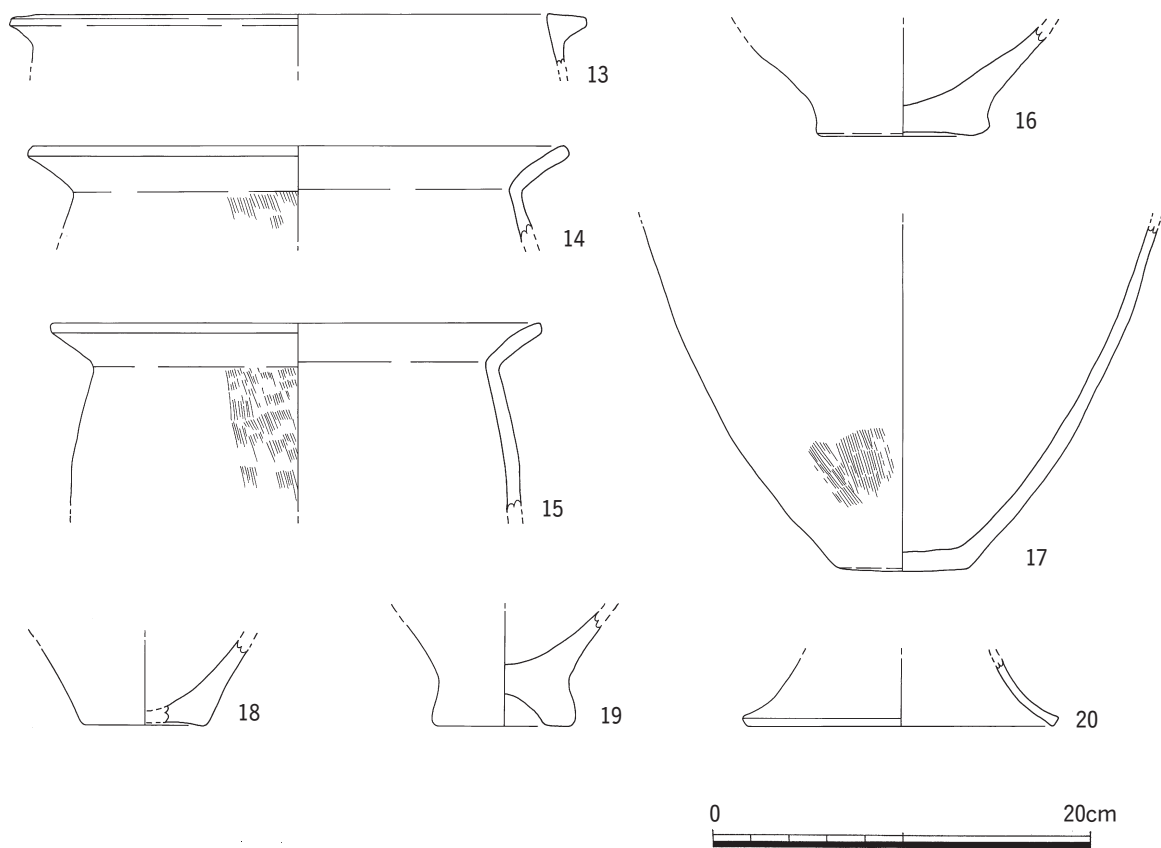


图6 SK11002土坑出土遺物 (1/4)

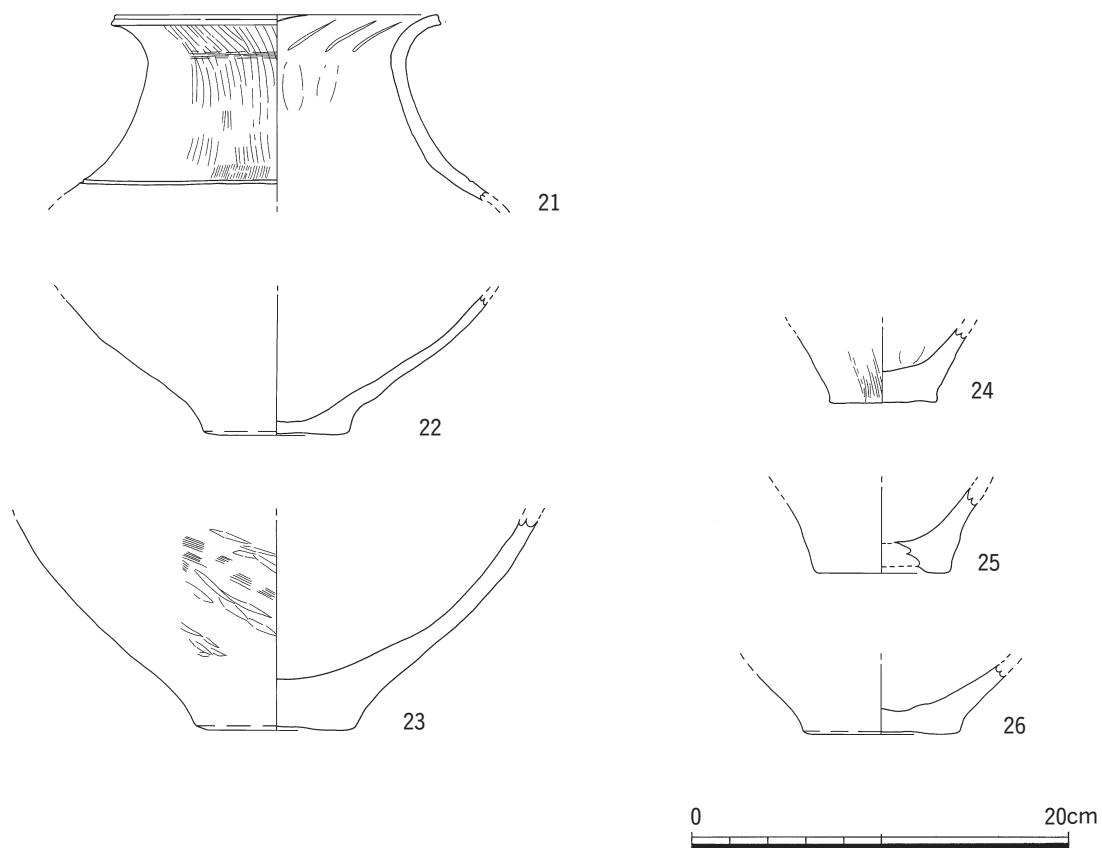


图7 SK11003土坑出土遺物 (1/4)

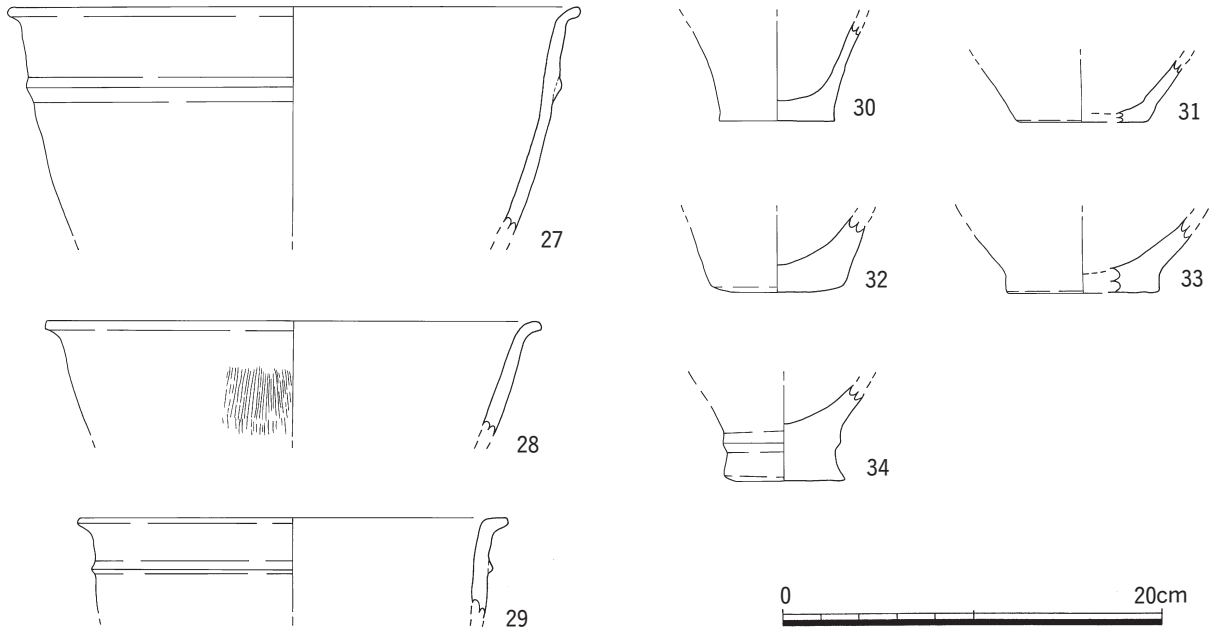


图8 SK11004土坑出土遺物 (1/4)

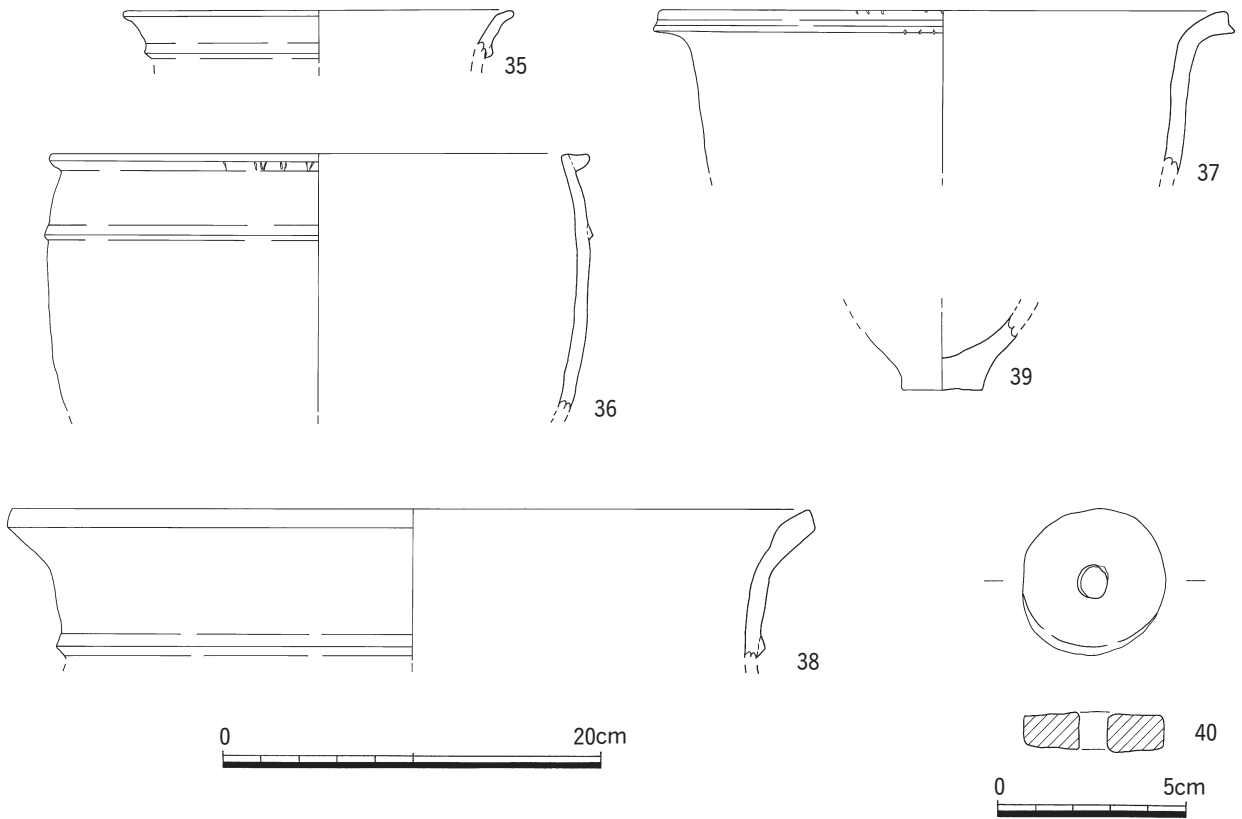


图9 SK11005土坑出土遺物 (1/4、40は1/2)



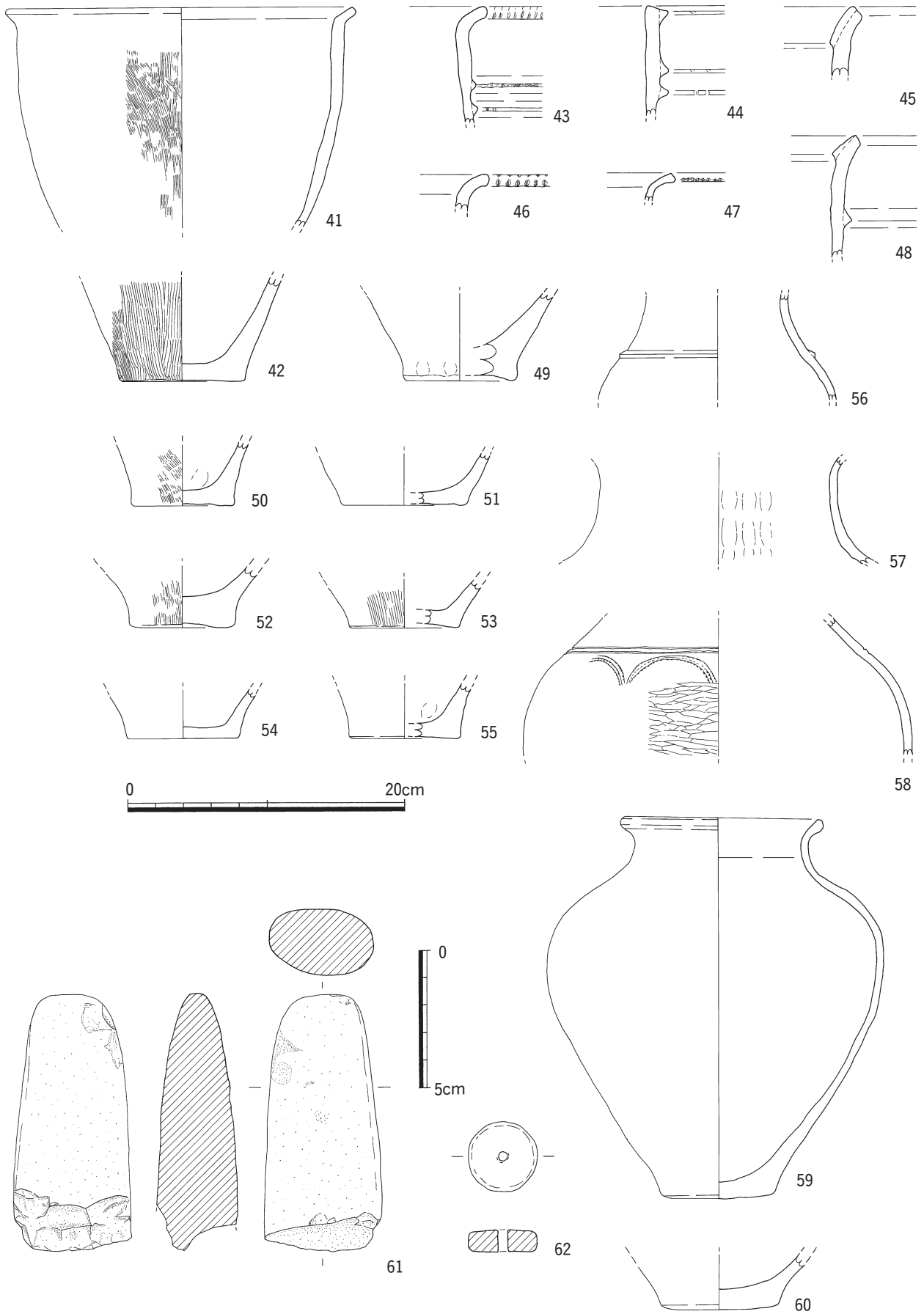


図10 SK11006土坑出土遺物 (1/4、61、62は1/2)



図11 12区遺構配置図 (1/125)

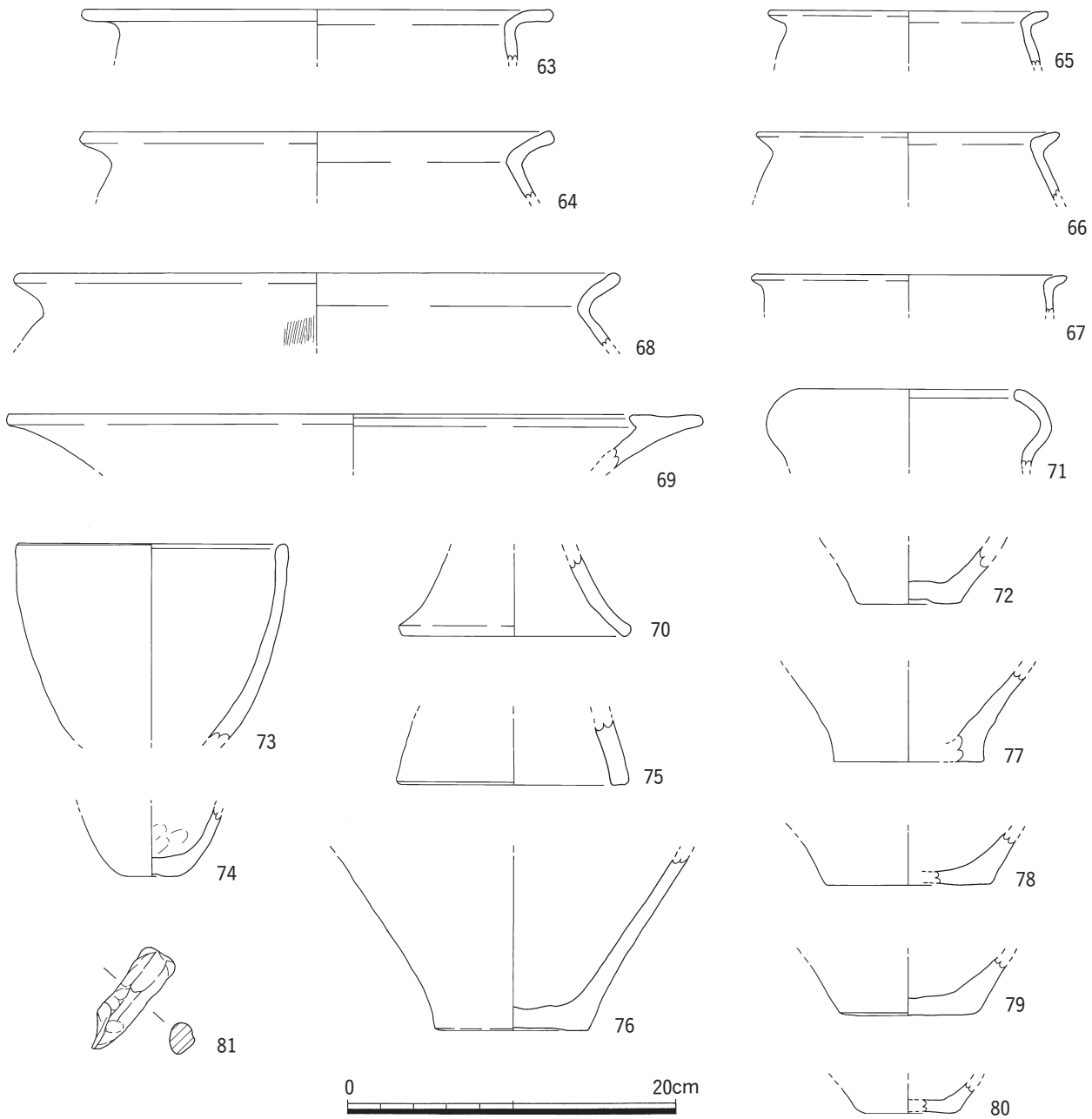


图12 12区出土遗物 (1/4)

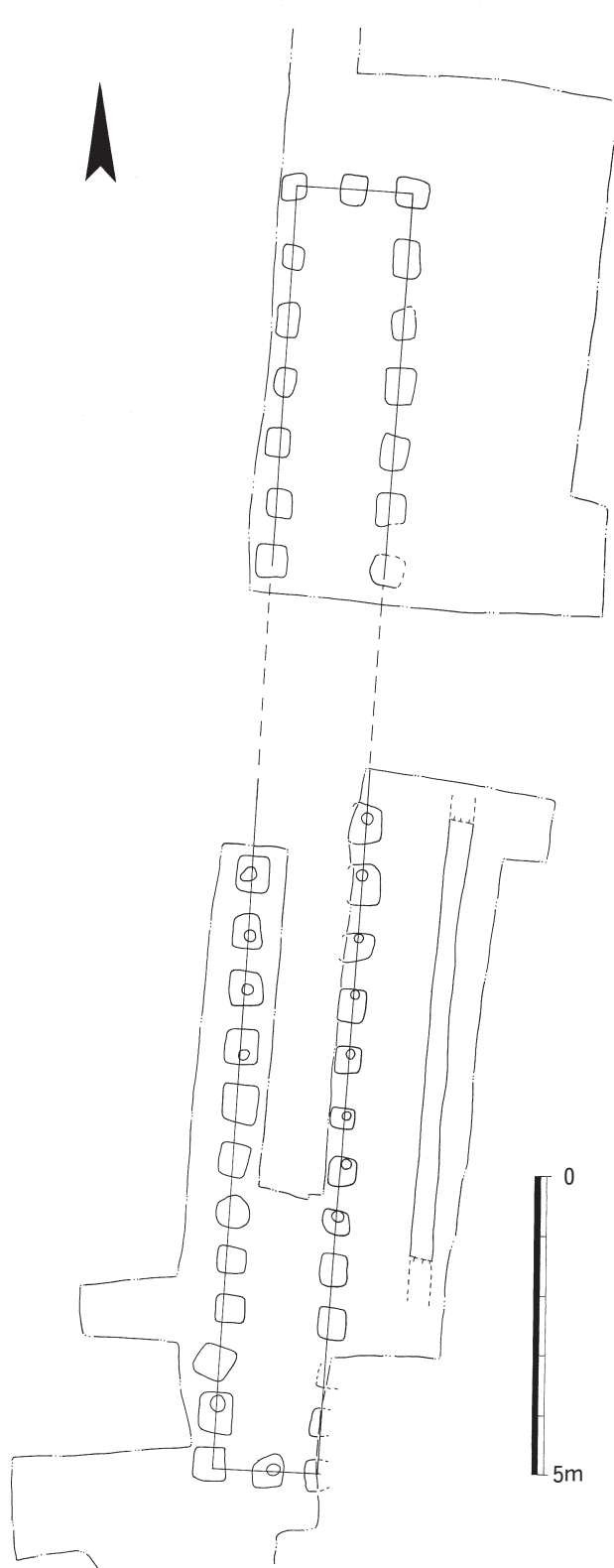


図13 確認調査地点検出掘立柱建物平面図 (1/125)

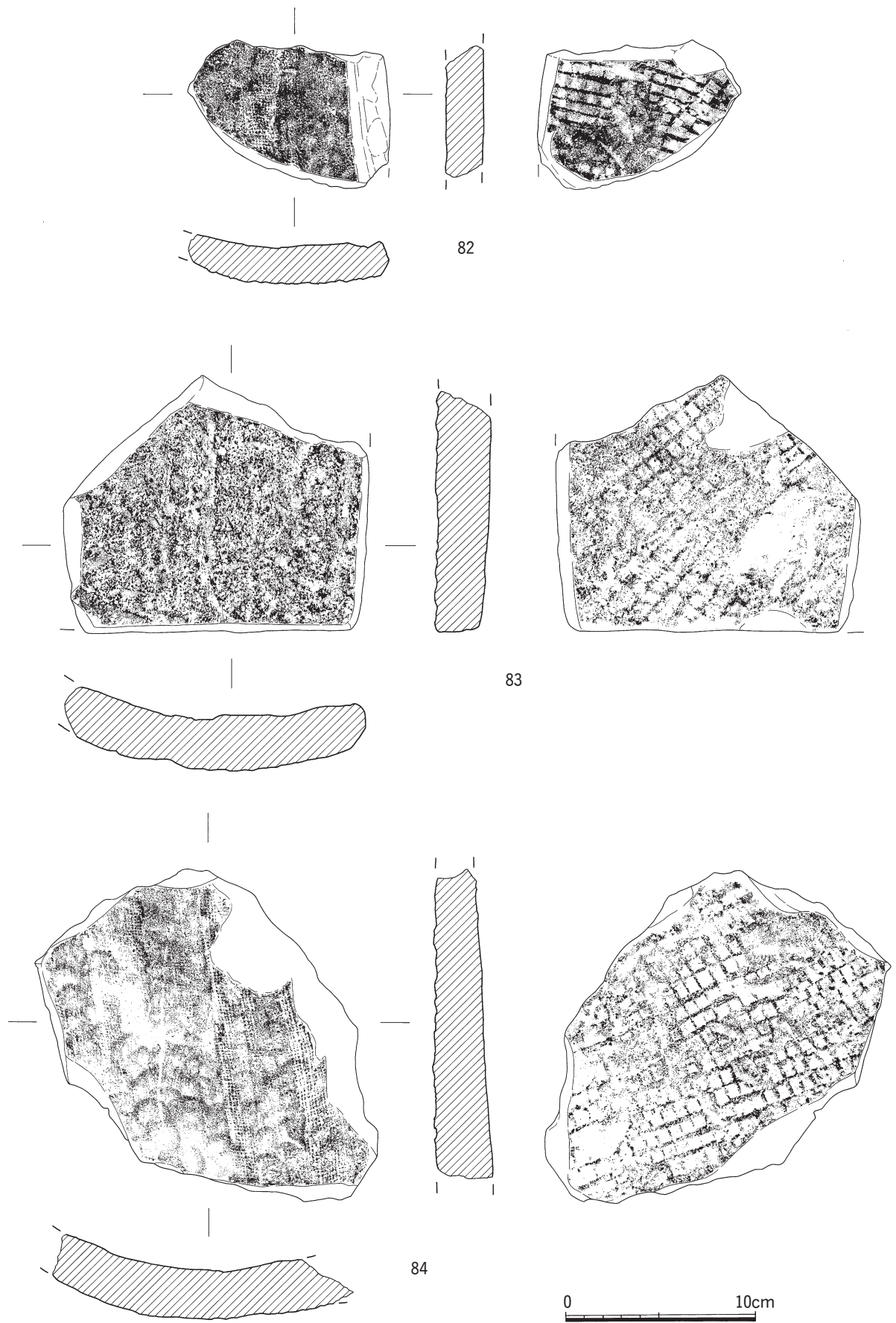


图14 掘立柱建物周边出土布目瓦 (1/3)

(\*は復元値、+は残存値)

表1 八ツ並金丸遺跡11区 弥生時代 貯蔵穴

遺構番号	挿図 番号	上面			断面形	深さ	床面			底面積	出土遺物	時期	備考	分類	方眼区画
		形	長軸	短軸			形	長軸	短軸						
SK11001	図3	楕円形	195*	95*	方形	72+	楕円形	165*	120*	1.9	甕・壺・小壺	前期末～中期初頭		小	C27
SK11002	図4	隅丸長方形	213	110	袋状	100+	楕円形	215	183	3.0	甕・壺・高杯	前期末～中期初頭		大	C27
SK11003	図4	隅丸長方形	190	140	袋状	96+	楕円形	160	133	1.7	壺	前期末～中期初頭	SK11002を切る	小	C27
SK11004	図3	楕円形	253*	152*	方形	42+	隅丸長方形	210+	120	2.4	甕	前期末～中期初頭		大	C27
SK11005	図3	楕円形	140	135	袋状	118+	円形	117	97	0.9	甕・小壺・紡錘車	前期末～中期初頭		小	C27
SK11006	図4	隅丸方形	135	125	袋状	138+	円形	150	140	1.7	甕・壺・高杯・石斧・紡錘車	前期末～中期初頭	炭化木材あり	小	C27

表2 八ツ並金丸遺跡11区出土遺物

(\*は復元値、+は残存値)

番 号	出 土 位 置	種 別	器 種	寸 法						色 調		備 考	登 録 番 号
				口 径	器 高	底 径	長 さ	幅	厚 さ	外 面	内 面		
5	SK11001	弥生土器	甕	28.8*	14.8+	-	-	-	-	-	橙	橙	030533
5	SK11001	弥生土器	甕	22.6*	14.3+	-	-	-	-	-	にぶい橙	にぶい橙	030537
5	SK11001	弥生土器	罍	18.6*	13.1+	-	-	-	-	-	にぶい褐	にぶい褐	030538
5	SK11001	弥生土器	甕	18.8*	3.9+	-	-	-	-	-	にぶい褐	にぶい褐	030543
5	SK11001	弥生土器	甕	18.8*	5.2+	-	-	-	-	-	にぶい橙	にぶい橙	030544
5	SK11001	弥生土器	壺	10.8*	11.4	4.4	-	-	-	-	暗褐色	にぶい褐色	030534
5	SK11001	弥生土器	甕	-	5.2+	9.0*	-	-	-	-	にぶい橙	にぶい橙	030540
5	SK11001	弥生土器	甕	-	7.0+	7.4*	-	-	-	-	にぶい橙	にぶい橙	030536
5	SK11001	弥生土器	甕	-	6.3+	6.2	-	-	-	-	浅黄橙	橙	030539
5	SK11001	弥生土器	甕	-	3.4+	6.0*	-	-	-	-	橙	橙	030535
5	SK11001	弥生土器	甕	-	11.3+	11.6	-	-	-	-	にぶい赤褐	にぶい赤褐	030541
5	SK11001	弥生土器	壺	-	5.1+	17.4*	-	-	-	-	明黄褐	明黄褐	030542
6	SK11002	弥生土器	甕	26.0*	2.5+	-	-	-	-	-	浅黄橙	浅黄橙	030546
6	SK11002	弥生土器	甕	28.0*	5.0+	-	-	-	-	-	にぶい橙	にぶい橙	030548
6	SK11002	弥生土器	甕	25.6*	9.8+	-	-	-	-	-	にぶい橙	にぶい橙	030550
6	SK11002	弥生土器	甕	-	5.7+	9.0	-	-	-	-	浅黄橙	浅黄橙	030545
6	SK11002	弥生土器	甕	-	18.1+	7.0*	-	-	-	-	橙	橙	030549
6	SK11002	弥生土器	甕	-	4.3+	6.4*	-	-	-	-	にぶい橙	にぶい橙	030551
6	SK11002	弥生土器	甕	-	7.0+	7.4	-	-	-	-	橙	橙	030554
6	SK11002	弥生土器	高杯	-	3.5+	16.0*	-	-	-	-	黄橙	黄橙	030559
7	SK11003	弥生土器	壺	17.0*	9.5+	-	-	-	-	-	橙	橙	030558
7	SK11003	弥生土器	壺	-	11.1+	8.4	-	-	-	-	にぶい黄橙	にぶい黄橙	030553
7	SK11003	弥生土器	壺	-	9.3+	7.5	-	-	-	-	橙	橙	030552
7	SK11003	弥生土器	甕	-	3.9+	5.8	-	-	-	-	にぶい橙	にぶい橙	030557
7	SK11003	弥生土器	甕	-	5.5+	7.0*	-	-	-	-	橙	橙	030555
7	SK11003	弥生土器	壺	-	3.8+	8.2	-	-	-	-	浅黄橙	浅黄橙	030556
8	SK11004	弥生土器	甕	30.0*	12.1+	-	-	-	-	-	にぶい橙	にぶい橙	030561
8	SK11004	弥生土器	甕	26.0*	6.0+	-	-	-	-	-	にぶい黄橙	にぶい黄橙	030560
8	SK11004	弥生土器	甕	22.4*	4.8+	-	-	-	-	-	にぶい橙	にぶい橙	030567
8	SK11004	弥生土器	甕	-	5.2+	6.0*	-	-	-	-	にぶい褐	にぶい黄橙	030563
8	SK11004	弥生土器	甕	-	3.2+	7.0*	-	-	-	-	にぶい橙	にぶい橙	030564

表2 八ツ並金丸遺跡11区出土遺物

(\*は復元値、+は残存値)

番 号	挿 図	出 土 位 置	種 別	器 種	寸 法				色 調		備 考	登 録 番 号	
					口 径	器 高	底 径	長 さ	幅	厚 さ			外 面
8	32	SK11004	弥生土器	甕	-	7.0+	4.0*	-	-	にぶい橙	にぶい橙	底部のみ	030566
8	33	SK11004	弥生土器	甕	-	3.9+	8.0*	-	-	橙	橙	底部のみ	030565
8	34	SK11004	弥生土器	甕	-	5.0+	6.4*	-	-	橙	橙	底部のみ	030562
9	35	SK11005	弥生土器	甕	20.6*	2.5+	-	-	-	暗褐	暗褐		030573
9	36	SK11005	弥生土器	甕	28.4*	13.5+	-	-	-	にぶい黄橙	にぶい黄橙		030569
9	37	SK11005	弥生土器	甕	29.8*	8.5+	-	-	-	橙	橙		030572
9	38	SK11005	弥生土器	甕	42.0*	7.7+	-	-	-	暗褐	暗褐		030570
9	39	SK11005	弥生土器	甕	-	4.0	4.2	-	-	黄橙	黄橙	底部のみ	030571
9	40	SK11005	土製品	紡錘車	-	-	3.8	3.7	1.0	暗褐	暗褐		030574
10	41	SK11006	弥生土器	甕	24.8*	15.7;	-	-	-	にぶい橙	にぶい橙	床面出土	030575
10	42	SK11006	弥生土器	甕	-	7.3+	9.0*	-	-	にぶい橙	にぶい橙	床面出土	030576
10	43	SK11006	弥生土器	甕	-	8.2+	-	-	-	浅黄橙	浅黄橙		030595
10	44	SK11006	弥生土器	甕	-	7.8+	-	-	-	浅黄橙	浅黄橙		030598
10	45	SK11006	弥生土器	甕	-	4.9+	-	-	-	黄橙	黄橙		030600
10	46	SK11006	弥生土器	甕	-	2.5+	-	-	-	浅黄橙	浅黄橙		030596
10	47	SK11006	弥生土器	甕	-	2.0+	-	-	-	にぶい橙	にぶい橙		030597
10	48	SK11006	弥生土器	甕	-	8.6+	-	-	-	黄橙	黄橙		030599
10	49	SK11006	弥生土器	甕	-	6.3+	8.0*	-	-	橙	橙	底部のみ	030581
10	50	SK11006	弥生土器	甕	-	4.5+	7.4*	-	-	にぶい橙	にぶい橙	底部のみ	030587
10	51	SK11006	弥生土器	甕	-	3.8+	9.0*	-	-	橙	橙	底部のみ	030582
10	52	SK11006	弥生土器	甕	-	4.4+	7.6*	-	-	橙	橙	底部のみ	030579
10	53	SK11006	弥生土器	甕	-	3.5+	8.0*	-	-	橙	橙	底部のみ	030580
10	54	SK11006	弥生土器	甕	-	3.6+	8.0*	-	-	にぶい橙	にぶい橙	底部のみ	030583
10	55	SK11006	弥生土器	甕	-	4.0+	8.0*	-	-	にぶい橙	にぶい橙	底部のみ	030588
10	56	SK11006	弥生土器	甕	-	7.3+	-	-	-	浅黄橙	浅黄橙	胴上部	030592
10	57	SK11006	弥生土器	甕	-	7.7+	-	-	-	浅黄橙	浅黄橙	胴部	030593
10	58	SK11006	弥生土器	甕	-	9.8+	-	-	-	浅黄橙	浅黄橙	肩~胴上部	030594
10	59	SK11006	弥生土器	甕	13.8*	27.2	8	-	-	浅黄橙	浅黄橙	床面出土	030578
10	60	SK11006	弥生土器	甕	-	4.2+	8.5*	-	-	浅黄橙	浅黄橙	底部のみ	030577
10	61	SK11006	石器	石斧	-	-	-	13.8+	6.3	灰白色	灰白色	今山産玄武岩	030591
10	62	SK11006	土製品	紡錘車	-	-	-	3.7	1.2	浅黄橙	浅黄橙		030590



表3 八ツ並金丸遺跡12区出土遺物

(\*は復元値、+は残存値)

番 号	挿 入	出 土 位 置	種 別	器 種	寸 法						色 調		備 考	登 録 番 号
					口 径	器 高	底 径	長 さ	幅	厚 さ	外 面	内 面		
12	63	検出面	弥生土器	甕	28.4*	3.0+	-	-	-	-	-	暗褐	暗褐	030608
12	64	検出面	弥生土器	甕	28.0*	3.8+	-	-	-	-	-	浅黄橙	浅黄橙	030607
12	65	検出面	弥生土器	甕	17.0*	3.2+	-	-	-	-	-	暗褐	暗褐	030613
12	66	検出面	弥生土器	甕	18.4*	4.0+	-	-	-	-	-	暗褐	暗褐	030612
12	67	検出面	弥生土器	甕	19.0*	2.3+	-	-	-	-	-	暗褐	暗褐	030609
12	68	検出面	弥生土器	甕	36.6*	4.3+	-	-	-	-	-	橙	橙	030606
12	69	検出面	弥生土器	高杯	42.0*	3.3+	-	-	-	-	-	橙(丹塗:赤)	橙(丹塗:赤)	030617
12	70	検出面	弥生土器	高杯	-	4.9+	13.6*	-	-	-	-	にぶい橙	にぶい橙	030616
12	71	検出面	弥生土器	壺	12.8*	4.6+	-	-	-	-	-	にぶい橙	にぶい橙	030615
12	72	検出面	弥生土器	甕	-	3.4+	6.2*	-	-	-	-	橙	橙	030611
12	73	検出面	弥生土器	鉢	16.4*	11.8+	-	-	-	-	-	橙	橙	030614
12	74	検出面	弥生土器	椀	-	4.1+	4.0*	-	-	-	-	暗褐	暗褐	030610
12	75	検出面	弥生土器	器台	-	3.9+	14.0*	-	-	-	-	にぶい橙	にぶい橙	030603
12	76	検出面	弥生土器	甕	-	10.5+	9.2*	-	-	-	-	橙	橙	030601
12	77	検出面	弥生土器	甕	-	5.4+	9.0*	-	-	-	-	橙	暗褐	030618
12	78	検出面	弥生土器	甕	-	3.1+	10.0*	-	-	-	-	橙	暗褐	030602
12	79	検出面	弥生土器	甕	-	3.5+	8.4*	-	-	-	-	にぶい橙	にぶい橙	030604
12	80	検出面	弥生土器	甕	-	1.8+	5.6*	-	-	-	-	にぶい橙	にぶい橙	030605
12	81	検出面	土製品	柄杓	-	-	7.1+	-	1.5	1.9	-	淡橙	-	030619
14	82	掘立柱建物跡周辺	布目瓦	平瓦	-	-	6.8+	-	10.6+	2.0	-	浅黄橙	浅黄橙	030620
14	83	掘立柱建物跡周辺	布目瓦	平瓦	-	-	13.2+	-	15.7+	2.9	-	浅黄橙	浅黄橙	030621
14	84	掘立柱建物跡周辺	布目瓦	平瓦	-	-	16.5+	-	18.0+	3.0	-	浅黄橙	浅黄橙	030622

# 写 真 图 版



調査地点全景（南西上空から）



1. 11区全景（南上空から）



2. 12区全景（南西上空から）

1. SK1101土坑 (南東から)



2. SK1103 (手前)・1102土坑 (奥) (南東から)



3. SK1102土坑 (南東から)



4. SK1103土坑 (西から)





1. SK1104土坑（西から）



2. SK1105土坑（南東から）



3. SK1106土坑（南から）



4. 同 床面遺物出土状況（南から）

1. 12区遺物出土状況（南から）



2. 掘立柱建物跡検出状況  
（確認調査区・南から）



3. 同（北から）



4. 同 側溝検出状況（南東から）





1. SK11001・11003土坑出土遺物



2. SK11006土坑出土遺物



3. 同



4. 掘立柱建物周辺出土布目瓦



鳥栖市文化財調査報告書第 76 集

# 八ツ並金丸遺跡

平成 17 年 3 月 28 日 印刷  
平成 17 年 3 月 30 日 発行

編集 鳥栖市教育委員会  
発行 佐賀県鳥栖市宿町 1118 番地  
印刷 大同印刷株式会社  
佐賀県佐賀市久保泉町大字上和泉 1848-20